

表題：第4回デジタルサイネージコンソーシアム調査研究会		
日時： 2009/5/13 15:00～16:00	場所： 慶応義塾大学三田キャンパス西校舎ホール	記録： 佐野
<p>参加者：総務省 情報流通振興課 安藤英作 様、 折笠史典 様          パナソニック(株) 窪田賢雄 様          日本電信電話(株) 伊能美和子 様          (株)オリコム 吉田勝広 様          (社)デジタルメディア協会 村上敬一 様          (株)ヒューマンメディア 秋本独人 様          慶應義塾大学大学院 菊池尚人 様          慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 研究員 尾崎常道 様          三菱電機(株) 阿良田剛 様          (株)ブイシンク 内藤正明 様          デジタルサイネージコンソーシアム 江口靖二 様          石戸奈々子 様 (順不同)</p>		
<p>1. 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・菊池様より「ユビキタスタウン構想推進事業（地域 ICT 利活用推進交付金）」について</li> <li>・尾崎様より「ICT 先進実証実験事業」について</li> <li>・ブイシンク様よりサイネージの防犯利用、安全安心利用への取り組みについて</li> </ul>		
<p>2. 「ユビキタスタウン構想推進事業（地域 ICT 利活用推進交付金）」 菊池様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で 195 億円、200 件程度の採択ではないか</li> </ul> <p>制度目的：ICT の集中的な利活用によって、交付金を活用し、安心・安全なまちづくり等を実現する。</p>		
<p>3-1. 「ICT 先進実証実験事業」 尾崎様</p> <p>ICT 先進実証実験事業は、本年 1 月からテーマ募集がなされ、4 月に総務省がテーマ採択をした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各システム間のネットワーク化の推進</li> <li>2. コンテンツ表現形式の汎用化</li> <li>3. サイネージと携帯電話の連動</li> </ol>		
<p>3-2. サイネージの防犯利用、安全安心利用への取り組み 内藤様</p> <p>カメラ：映像情報配信視認状況の計測、指名手配犯・捜索人検知システムの実証運用</p> <p>Felica：対話型端末として地域に貢献することを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事業のコンセプトは「明るく安全な地域を実現する新たな情報インフラの構築」</li> </ul>		

- ・顔の「特徴点データ」を使用、個人情報は一切保存されない＝プライバシーの保護

#### 4. コメント/ディスカッション

- ・DS も新しい市場形成のステップを踏み始める時期に来たと感じる。それだけに、こういった実験が広く行われ、またそれらの実験が成功することを期待している。
- ・携帯電話は情報端末に近くなり PC のように使われている中で、プッシュ型の情報提供に向いているか？ユーザーにとって本当にその情報が価値あるものでなければ、成功しない。
- ・携帯はプル型の端末である。プッシュとプルの関係を成立させることはビジネスの原点であり、今回の実験の中でも成功させていきたいと考えている。
- ・広告物としてカメラをつけることに対する懸念がある。その解決策として、「安心安全なまちづくり」を掲げることを検討したい。
- ・異なるシステムのネットワーク化が重要であるがコスト面を解決しなければならない。実証実験では個人情報への懸念などから「なかなかタッチをしてくれない」ことが課題。
- ・大きなモニターでキャッチ、小さなモニターに誘導して商品の詳細を伝える、というモデルを展開していきたい。
- ・ユビキタス特区でも DS の案件は多い。地域的・公共的に自治体と連携して DS を展開し、サービスの提供だけでなく「活用」していくことをぜひ考えて頂きたい。
- ・ユーザーの「タッチしたらお金がかかるのでは」「クーポンをもらうのはセコい」という懸念を解決しなければならない。(ex.募金など)

#### 5. おわりに

次回調査研究会は 8 月を予定している。

以上